

工事を通して樺太を見る

樺太廳内務部土木課長

寺 井 弘

大泊港全景



1 大 泊 港

大泊港（東經 142 度 45 分 26 秒北緯 46 度 37 分 14 秒）は、亞庭灣の北隅に位し、本島の咽喉を扼し、北海道及本州との水陸連絡の要衝に當れり。

本港は大正 9 年度より昭和 3 年度に亘る 9 ヶ年間の歳月と工費 587 萬 400 圓を費し修築完成せり。

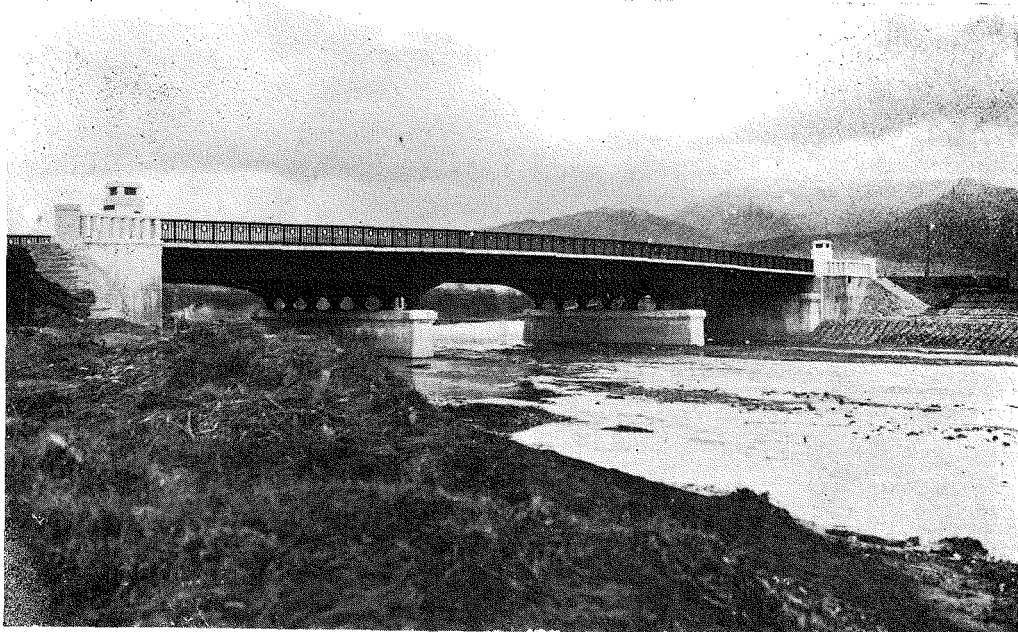
港灣施設概要

繫船埠頭 520 米、幅員 36.4 米、岸壁水深 8 米とし 3 千噸級 3 隻、2 千噸級 3 隻を同時繫船するの装置をなし埠頭上には臨港鐵道、船車

連絡待合所上等を設置して専ら稚内、大泊及小樽、大泊連絡船貨客の乗降に便す。

右の内先端 93 米は、在來突堤の内側に三井鑛山株式會社の施設せるものにして、工費 64 萬餘圓を以て昭和 3 年 7 月着工、同 5 年 8 月竣工せり、石炭及「バルブ」の荷役設備を完成す。

又埠頭根部の東側に延長 571 米、3 條より成る防波堤を築造して面積 139,800 平方米を被覆し水深 1.4 米乃至 2.7 米に浚渫して小型船舶の繫留に便し、其左右 307,800 平方米を埋築し市街地及倉庫地となせり。



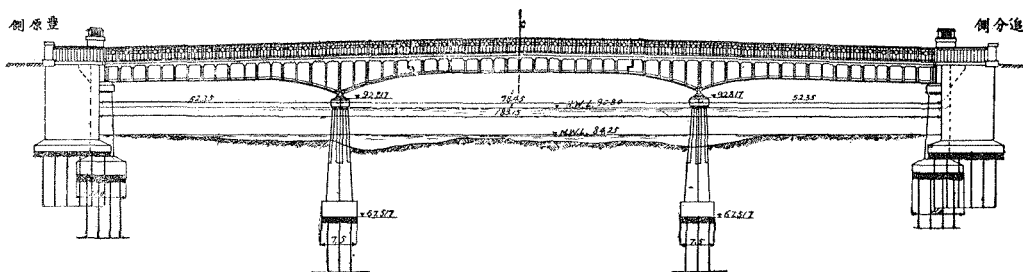
(1) 西 大 橋 全 景

2 西大橋架換工事概要

位置 豊原町一線より追分に至る鈴谷川筋
 型式 上路型突桁式鋼鈹桁。
 橋長 183.15尺
 幅員 車道29.6尺、人道19.8尺。
 下部構造 杭打基礎上主體は鐵筋混凝土。
 同上工費 7萬4千圓
 上部構造 鋼鈹桁上、車道は鐵筋混凝土床版上に石塊鋪裝。人道は鐵筋混凝土床版をモ

ルタル仕上げとす。
 同上工費 5萬5千圓
 起工 昭和5年5月
 竣工 昭和6年10月
 設計並に監督 樺太廳土木課
 請負者 下部工事 豊原町 遠藤米七氏、
 上部工事 大阪 日本橋梁會社。

(2) 西 大 橋 側 面 圖





樺太豊原大泊間國道一部

3 道路改良工事

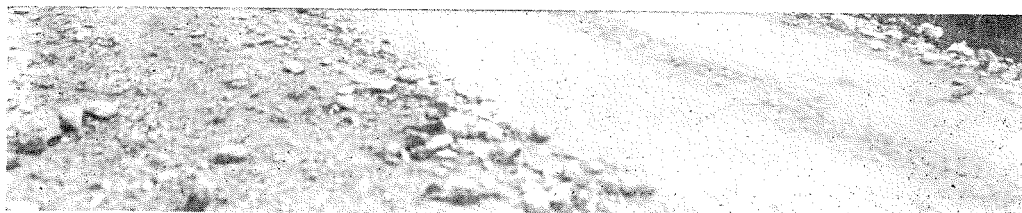
工 費 556萬圓

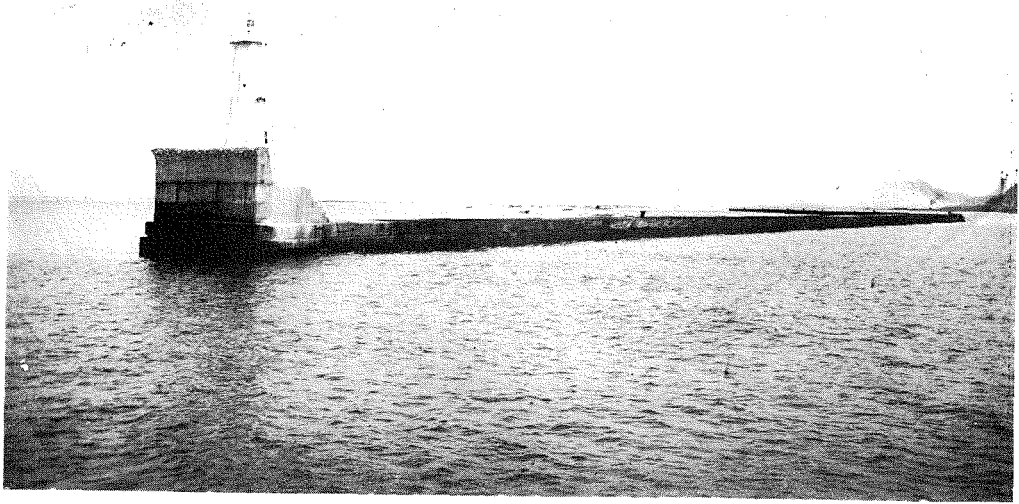
年 限 拾ヶ年 昭和四年度より着手

總 延 長 278里

計劃造成幅 5米50糎乃至7米30糎

寫眞は改良工事竣功せる大泊豊原間の一部に
して幅員7米30糎の箇處を示す





1. 樺太本斗港々口

4 本斗港改良工事概要

本斗港（東經 141 度 52 分北緯 46 度 40 分）は西海岸南部の要地にして且つ本島唯一の不凍港なり。

本港は大正五年度以降昭和元年度に至る 11 ヶ年間の繼續事業として工費 250 萬圓を以て修築せられ、防波堤の築造、港内の浚渫、埋立及護岸の築設、船入潤等の施設を完成し千噸級船舶の收容に遺憾なからしめたるも、其接岸設備には僅に長 40 間の横棧橋を以て之に充てたり。

爾來産業の増進に伴ふ收容船舶の増加、吃水の増大等により港内の増深岸壁築造等の必要を認めたるを以て樺太廳に於ては工費 30 萬圓を以て昭和 6 年以降 3 年に亘り岸壁水深

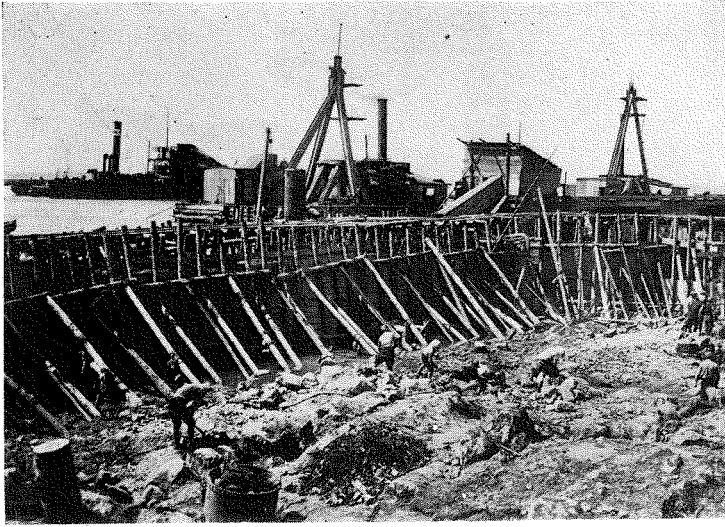
7.3 米氷延長 364 米を築造し 3 千噸級 3 隻の接岸荷役並に乗客の昇降に便するものとす。

備考 岸壁長 150 米は昭和六年度竣成
殘餘工事は同 7、8 年完成の豫定とす。

岸壁構造の大要

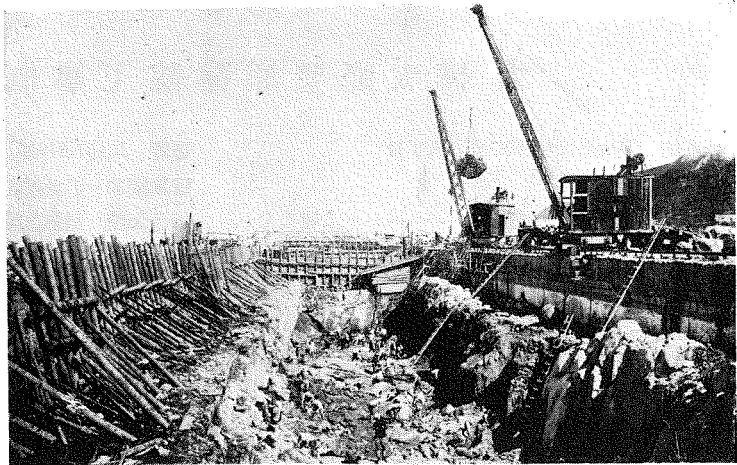
岸壁下部は在來岩盤（硬質頁岩）を三分の一勾配を附し干潮面以下 7、3 米に堀鑿し表面「セメントガン」仕上とす

上部は埋立地護岸混凝土前面及頂部を平均厚 0.6 米乃至 0.16 米に夫々被覆嵩置をなし延長 4.6 米置に高 2.2 米厚 0.91 米幅 4.6 米の中空鐵筋入「フェンダー」混凝土を施工し更に前面に厚 0.61 米の木製「フェンダー」を取付くるものとす。

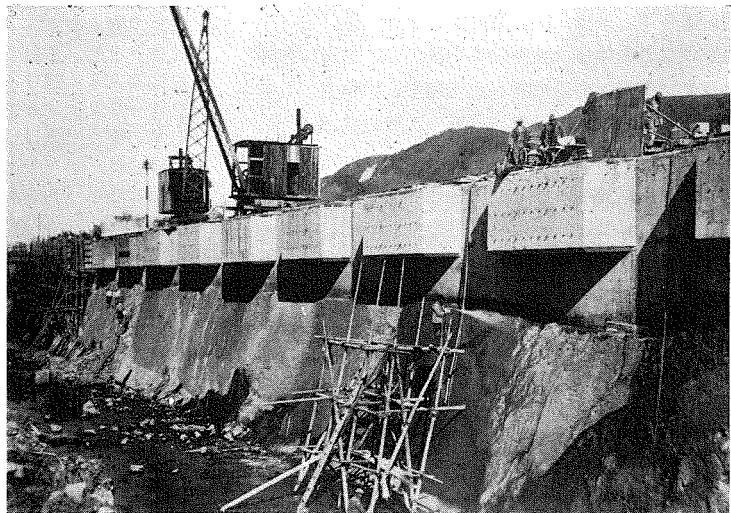


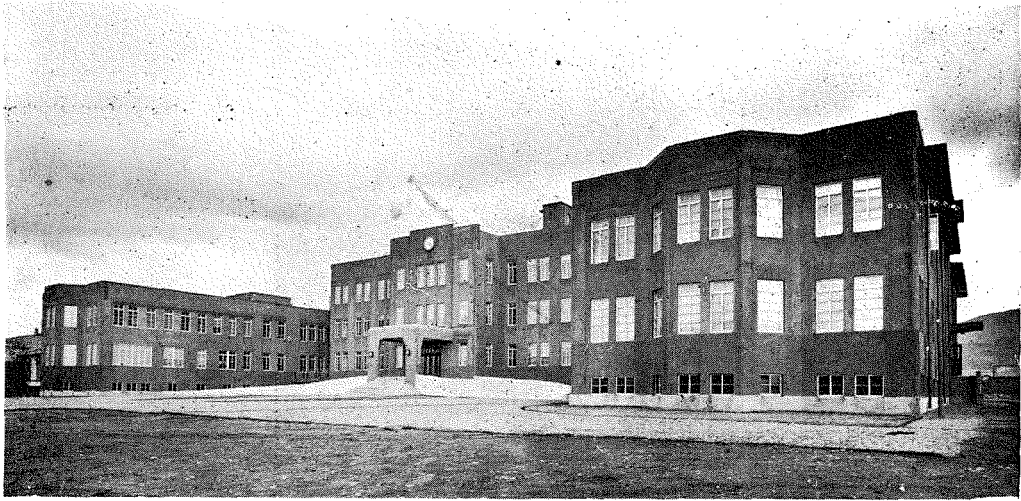
2. 本斗港24尺岸壁工
事の一部假締切排水

3. 同上岸壁掘鑿。



4. 同上コンクリート
施工。





1. 樺太廳豊原醫院全景

5. 樺太廳豊原醫院工事概要

所在地 樺太豊原町東三條南八丁目

敷地面積 12,350坪

建物大さ 高さ——地盤よりパラベット上端まで中央三階部49尺、中央最高部67.5尺、左右兩翼部35尺、間口——270尺。奥行——150尺。

各階坪數 地階——244.083坪、下足場、藥品製煉室、洗瓶消毒室、藥品倉庫、冷藏室、藥品研究室、瓦斯發生室、浴室、理髮室、賣店、食堂、磨工室、温水タンク室、蓄電變電室、倉庫等に充つ。壹階——606.533坪、玄關、下足受渡所、廣間、待合所、受付、事務室、事務長室、宿直室、藥局、應接室、小使室、電話交換室、便所等を中央部に、兩翼に内外科及レントゲン科診察室、患者控室、物療室、大手術室、小手術室、準備室、痲酔室、機械室、消毒室、付添人控室、浴室、ギプス室、レントゲン室、及その機械室等に充てる。貳階——598.533坪、第一第二研究室、院長室、應接室、培養室、醫局、各科長室、醫員當直室、フランク室、婦長室、天秤室、動物室、便所等を中央部に、兩翼には眼科、齒科、小兒科、皮膚科、婦人科、耳鼻科、各診察室、待合室、手術室、研究室、技工室、準備室、處置室、検査室等を設く。參階——180坪、講堂、控室、圖書室、娛樂室、會議室、應接室、食堂、標本室、豫備室等。四階——休憩室、日光浴室等。

建坪 1,657.649坪。

建築様式 近世式。

構造主體 鐵筋混凝土造。鐵筋使用量536噸、混凝土使用量765.35立坪。

外部仕上 腰廻り人造石洗出し、パラベット頂部タイル及テラカツタ使用、壁面總體淡黄褐色リシン仕上げとす。

内部仕上 壁は主として白色漆喰塗仕上、院長室、應接室、講堂、婦長室は壁紙貼り、支關腰廻り人造大理石、便所、各手術室、準備室、浴室、培養室等は腰廻り白色タイル張り、その他はリグノイド塗仕上げとす。

床は玄關モザイク・タイル張り、下足場その他人造石磨き出し、各科手術室、準備室、便所、浴室、培養室等タイル貼り、應接室、院長室、講堂は檜材製フローリングプロック張、其他はリグノイト仕上げとす。窓及出入口は外部窓に二重ステールサツシ出入口にはスチールドアをひびんキ塗、内部は主として新田式ベニヤドアーを採用ベんキ塗とす。

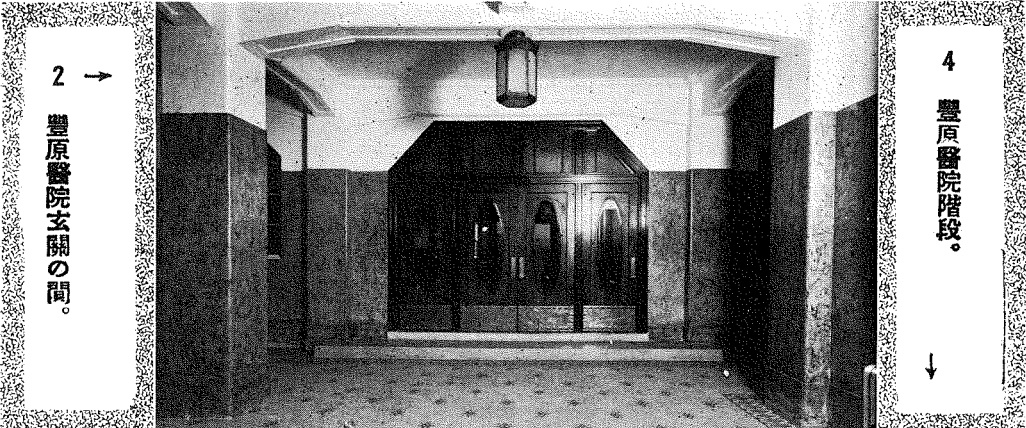
附帶設備 以上の他附帶設備として防火設備、塵芥投下管、エレヴエーター、暖房裝置、醫療用蒸氣裝置、照明器具、變電設備、電氣時計、電話、電鈴、火災報知器、瓦斯設備等完備す。

使用職工 延64,870人。

工費 869,274圓。

工期 昭和4年6月7日起工、同6年11月2日竣工。

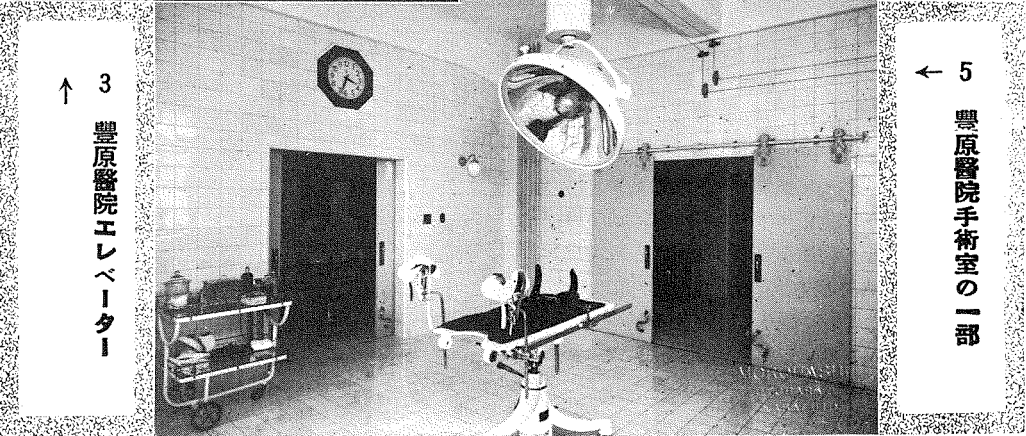
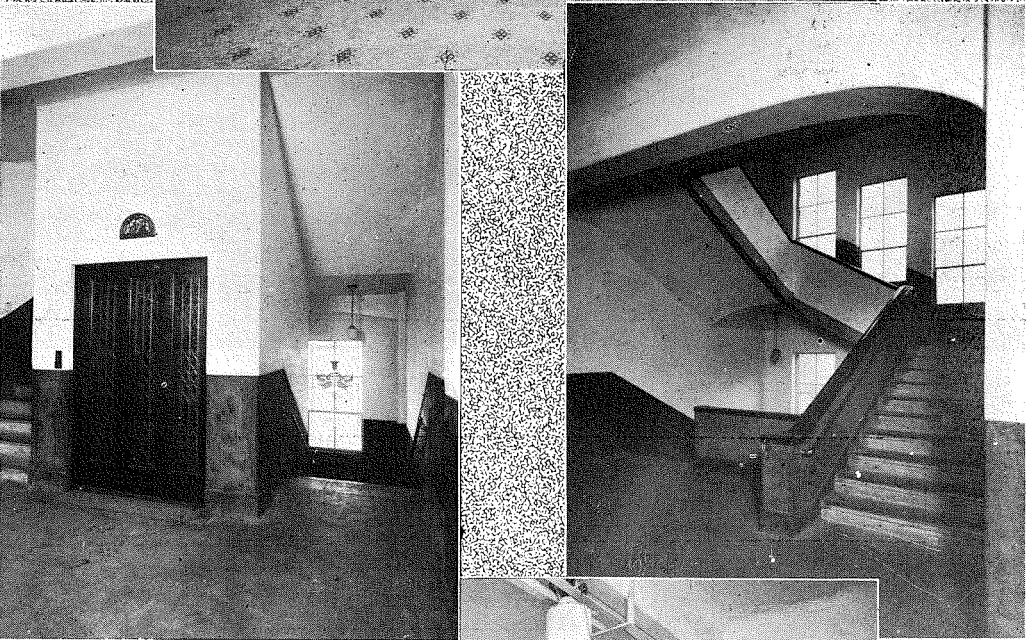
工事關係者 設計監督、樺太廳土木課、施工者、建築工 エレヴエーター工事遠藤米七、附帶設備工事齋藤省三。



2 →

豊原醫院玄関の間。

4 豊原醫院階段。



↑

3 豊原醫院エレベーター

←

5 豊原醫院手術室の一部